様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２５１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ０１２３０

研究課題名（和文）ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性-農山漁業の事例から-

研究課題名（英文）Management of knowledge in the post-specialization period and limitation of this management - case study of rural cultures

研究代表者
石本　敏也（ISHIMOTO, Toshiya）

聖徳大学・文学部・准教授

研究者番号：００４０６７４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、生業従事者が生業遂行にあたりどのようなコストを抱えつつ手元の生業知識の活用をモチベーションとして生業遂行を進めていくのか、その調整過程の解明を考察するものである。
　研究成果としては、現代の第一次産業をポスト専業化時代として位置付け、生産にかかる総合的なコストを把握した上で、眼前に展開される多様な機械化受容のあり方に生業者におけるモチベーションが介在し得ることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　現代日本において農山漁業を主とする第一次産業従事者は激減している。こうした状況下において本研究は実態把握を前提に、生業実践においてどのようなコストを抱え、どのような生業知識を積み重ねモチベーションを介し為しえるのかを考えたものである。
　本研究が把握し得た農山漁業の多様な側面からフィールドワークに基づいた実態と、特に機械化受容の多様なあり方を踏えた変遷過程の提示は、今後より進展が進む生業の機械化を考える上で意義ある成果になり得ると考える。

研究成果の概要（英文）：　This research seeks to elucidate the costs borne by individuals as part of their engagement in livelihoods and the application of specialized knowledge as motivation for making adjustments to accommodate these costs.
　After positioning primary industry in the modern era as the post-specialization period and examining the overall costs of production, the research revealed that the response to wide-ranging mechanization may be mediated by producers’ motivation.

研究分野：民俗学

キーワード：継承　生業　機械化　民俗　コスト

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、現代日本における農山漁業を主な事例とし、その生業遂行にむけたコストと生業従事者が手元の知をやり繰りしモチベーションとし遂行を進めるのか、その調整過程も含めて明らかにするところにある。現代農山漁業は知への比重が増大した生業といえる。他方、従来最大の負担とされた労力は田植え機やコンバイン、またはエンジンなど機械化に伴い激減している。すなわち、現代第一次産業を捉える際にこの知の側面の把握は必須である。

とくに現代社会はポスト専業化時代と呼びうる多様化の時代である。生業遂行には多様化する時代背景のもとその対応をし続けなければならない。その心理的負担は巨大だが、他方、生業知識をやり繰りし思い通りの収穫を得ることへ生業遂行への意欲を獲得する例も少なくない。この生業遂行の際に発生する内発的な意欲は、仕事を持続可能にする最大の要因と考えられる。

２．研究の目的

本研究は、農山漁業を主な事例とし、ポスト専業化時代とも呼びうる現代第一次産業下において、いかに従来の生業知識をやり繰りしながら生業遂行がなされ得るのか、その調整過程も含めた実態把握をおこなうことを目的とする。この視角により、生業の機械化等、従来十分とは言い難い生業研究に有効な新視角を、実態調査を元にして明らかにする。

３．研究の方法

本研究は、生業従事者が生業遂行にあたりどのようなコストとモチベーションをもつのか、その調整過程の解明を元とした生業遂行を考察するものである。本研究はこの観点から、農山漁業の視野から地域を異にした調査を遂行した。具体的には、研究代表者の石本が茨城県の麦藁を用いた文化把握と新潟県東蒲原郡の河川業、研究分担者の松田が花崗岩採掘にかかわる知識や技術、同様に研究分担者の磯本は阿波晩茶製造技術、そして研究分担者の卯田は琵琶湖漁師の漁業実践を担当した。加えて研究代表者の石本は、新潟県東蒲原郡の津川において保持される『百万遍永代帳』をもととして、研究協力者の久保、村上とともに特に明治期における港町津川の史料を公表する班を用意した。以上、農山漁業の遂行をもととする班と、史料読解と公表をすすめる班の、二班により本研究は組織され遂行された。

４．研究成果

具体的な研究成果は以下の通りである。各成果とも、定例の報告会を実施し、議論を通し互いの成果の共有と深化をつとめてきたものである。

石本は、新潟県東蒲原郡の阿賀野川沿いの港町である津川を中心とした河川利用に着目

し、河川を利用した経験知の把握ととくに年中行事への関わりを意識した調査を遂行した。あわせて関連する資料整理と文献収集をおこない、成果を公表した。また畑作物への関心から、茨城県の事例として麦藁を用いた盆綱行事の実態把握をおこない、その成果を公表した。

松田は、花崗岩採掘にかかわる知識や技術の把握をおこなった。現在機械化も進む花崗岩採掘の実態を、現役の石材採掘職人の聞き取りをもととし、特に機械との関わりに焦点を当てた調査をおこなった。調査成果の一部は、神奈川大学日本常民文化研究所で開催された第24回常民文化研究講座「景観の総合資料学―漁場図を読む２―」において、「石丁場―技術の進歩と景観の変化―」と題して発表した。

磯本は、徳島県那賀町、上勝町における阿波晩茶製造技術と生業としての位置づけに焦点をあてた調査研究を行った。具体的には、阿波晩茶製造における動力機械の導入を詳細に調査し、茶摺り機・茶捌き機・選別機とその変遷過程を明らかにした。稀少な生産例、地域に限定的な生産例では、生産にかかる総合的なコスト、他の作物や生業との相関の中で、ほど良い水準での部分的な動力機械の導入がなされてきた点を指摘した。その成果は、「阿波晩茶製造技術と動力機械の導入」として『徳島地域文化研究』19号（2021年3月）に発表した。

卯田は、琵琶湖の漁師たちによる生業実践に着目し、新・旧漁撈技術の導入と放棄、外来生物による生態系への影響とその対応に関わる調査をおこなった。そして、生業技術の発展に関わる現象を変化の方向性の違いから機械化と装置化という二つに分類し、生業研究に新たな視座を示した。そのうえで、生業の現場でみられる、外来の技術をあえてとりこまない現象を「脱機械化」とよび、機械化や装置化が進まない／進めない要因を整理した。こうした視座の提示を通して、生業技術の変化は道具が機械化し、それがより専門化するという単純な発展論で描けないことを指摘した。そして、一連の研究成果を『外来種と淡水漁撈の民俗学―琵琶湖の漁師にみる「生業の論理」』として公開した。

あわせて、研究代表者は、研究協力者である久保康顕、村上弘子とともに、資料集『百万遍人別帳　津川下田町　諸掛表　明治元年～明治四十五年』を作成した。本研究の史料にもとづく成果として、とくに明治期に焦点を当てた津川町の町場の行事を詳細に明らかにしたものである。津川町という近世会津藩の港町として栄えた、河川と町場の民俗の一端を知る上で有用な資料集を作成し得たものである。他方、本帳面は平成10年（1998）まで続く記載内容を持ち、その全容を公表し得たものとは言い難い。本帳面の大正期以降については今後の課題と言える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 石本敏也	４．巻 421
２．論文標題 河川と正月行事:新潟県東蒲原郡阿賀町熊渡	５．発行年 2021年
３．雑誌名 高志路	６．最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 石本敏也	４．巻 59
２．論文標題 つくば市栗原の盆綱行事	５．発行年 2020年
３．雑誌名 茨城の民俗	６．最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯本宏紀	４．巻 19
２．論文標題 阿波晩茶製造技術と動力機械の導入―茶摺り機・茶捌き機・選別機とその変遷過程	５．発行年 2021年
３．雑誌名 徳島地域文化研究	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計1件

１．著者名 卯田宗平	４．発行年 2022年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 232
３．書名 外来種と淡水漁撈の民俗学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松田　睦彦 (Matsuda Mutsuhiko) (40554415)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	卯田　宗平 (UDA Shuhei) (40605838)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	磯本　宏紀 (Isomoto Hironori) (50372230)	徳島県立博物館・その他部局等・専門学芸員 (86101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関